

## 2020年競技者必携修正箇所一覧

(公財)全日本軟式野球連盟  
技術委員会

本年度、競技者必携更新に伴う訂正箇所です。特に赤字項目を確認しご理解下さい。

- 1) スピーディーに試合を展開するために を追加挿入しました。・・・目次の前頁
- 2) 野球競技場区画線(学童部)の右下余白に4年生以下の投手本塁間・塁間を追記しました。・・・4頁  
投手本塁間 14m ・ 塁間 21m
- 3) 全国大会に参加するチーム・審判員の注意事項について ……15頁  
全国大会に参加するチームの項に、審判員の注意事項大会審判員についてを追記しました。
  1. 大会審判員は、毎年登録した全日本軟式野球連盟公認審判員が任にあたる。
  2. 全国大会の派遣は、60歳以下の指導員としその年の各ブロック指導員研修会に参加した者とする。
- 4) **ベンチの入れ替えについて ……16頁・24頁**  
**チームが2試合続けて行う場合は、ベンチの入れ替えをしないことがある。を追記しました。**
- 5) **特別継続試合について ……19頁・26頁**  
**特別継続試合は、1日2試合に抵触しないとを明記しました。**
- 6) **ベンチ前のキャッチボール禁止について ……19頁・27頁**  
**ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認めることにしました。**
- 7) 試合前後の挨拶について(一般) ……19頁  
挨拶はホームプレートを挟んで球審の合図で行う。これですべて完了する。  
試合に敬意を表し本部役員も起立し挨拶をする。を追記しました。
- 8) 7回戦の試合について ……20頁
  - ①国民体育大会の順位決定戦は時間制限はないことを明記しました。
  - ②全日本シニアに限り、得点差によるコールドゲームを5回以降7点差と追記しました。
- 9) 延長戦について ……21頁
  - ①天皇賜杯大会、国民体育大会では、試合開始後、3時間を経過した場合のみ、新しい延長イニングに入らないを明記しました。
  - ②マスターズ、全日本シニア大会の延長戦は9回(最長2回)まで、もしくは試合開始後、2時間30分を経過した場合は、新しい延長イニングに入らない。を追記しました。
- 10) 指名打者の取り扱いについて……23頁  
日本スポーツマスターズおよび全日本シニアは、指名打者制度を掲載しました。
  - (1)指名打者について
    - ①指名打者を採用するか、しないかはチームの任意である。
    - ②投手に替わって指名打者を採用できる。
    - ③試合開始前に指名打者を指名しなかった場合は、その試合で指名打者を使うことはできない。  
(指名打者の打順は変更できない)
    - ④指名打者は相手チームの先発投手に対して、少なくとも1回は打撃を完了しなければならない。  
その先発投手が替わった場合はその必要はない。
    - ⑤指名打者は代走者にはなれない。

(2)指名打者制度が消滅する基準

- ①指名打者が守備に付いた場合
- ②投手が他の守備位置についた場合。
- ③代打者または代走者が投手となった場合
- ④投手が指名打者に替わって打撃をするか、走者になった場合。
- ⑤他のプレーヤーが投手になった場合。
- ⑥投手が打順に入った場合。

11) 試合の挨拶について(学童部・少年部)・・・27頁

試合の挨拶は、試合前後の本塁整列の挨拶が全てであり、相手・大会本部への挨拶は不要である。  
(応援団への挨拶は奨励) 試合に敬意を表し本部役員も起立し挨拶をする。を記載しました

12) 少年部、学童部、女子大会のタイブレーク方式について・・・28頁

投球制限を遵守の上、勝敗が決するまで続行する。ことにしました。

13) 学童部・少年部の投球制限について・・・30頁

1人の投手が、1日に投球できる数を下記の取り扱いとする。を明記しました。

【学童部】

・1日の投球数：70球以内(4年生以下60球以内)

【少年部】(内容通達)

・1日の投球数：100球以内

・1週間の投球数:350球以内

- ①試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- ②ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
- ③タイブレークになった場合、1日規定投球数以内で投球できる。
- ④牽制球や送球とみなされるものは投球数としない
- ⑤投球数の管理は、大会本部が行う。

14) タイムの回数について・・・33頁

①監督またはコーチ等が投手のもとへ行く回数・守備側のタイムの回数・攻撃側のタイムの回数を試合のスピード化に集約しました。

②それぞれ、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、1イニングに1回行くことができるにしました。

15) 9回戦の試合目標時間について・・・34頁

競技時間は120分以内を目標とする。に現実的な時間設定にしました。

16) 投手のボールを受けてからの時間について・・・35頁

試合のスピード化に関する事項に下記を掲載しました。

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、走者が塁にいない場合はただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。

17) レッグガードとエルボーガードを外す時のタイムについて・・・36頁

外す時のタイムは認めるが速やかに行うこと。と記載しました。

18) 投手のサングラスの取り扱いについて・・・38頁

投手は、使用できない。と明示しました。

19) バットの使用制限について ……39頁

バットは改造、加工したものは使用できないにしました。

20) 臨時代走について ……47頁

前位の者、ただし投手を除くにしました。

21) 先発投手の勝利投手の投球回数の基準について ……50頁

7回戦の先発投手の勝投手、負投手の基準は4回とする。5回戦は3回とする。としました。

22) 用語の統一について ……98頁・123頁

問中の挟撃をランダウンプレイに統一しました。

(例3) 二・三塁間でランダウンプレイ中、……

23) 問中の規則適用上の解釈の変更に伴う回答の修正について ……138頁

2019年版 問87を削除し、問88以降2020年版で繰り上げ、問87の答の文書を一部削除しました。

24) 審判上の注意すべき事項について ……164頁

投手の投球動作の解釈の変更に伴い文書の差し替えをしました。

打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。“中断”とは、投手が投球動作を起こしてから途中でやめてしまったり、投球動作を一時停止したりすることであり、“変更”とは、windアップポジションからセットポジション(または、その逆)に移行したり、投球動作から塁への送球(けん制)動作に変更することである。

25) 振り逃げの際のジェスチャー ……171頁

投球の判定の項にノーキャッチのジェスチャーをするを追加しました。

26) インターフェアのシグナルの変更について

左手から右手に変更しました。

27) インターフェアの宣告について ……178頁・184頁・185頁

【反則打球】

球審は「タイム」を宣告し、右手で打者を指さして「反則打球」と宣告し、続いて「バッターアウト」と……

【打撃妨害】

球審は「タイム」と宣告し、続いて捕手を右手で指さして「打撃妨害」または「インターフェア」をコールする。

球審は右手で捕手を指さして「打撃妨害」または「インターフェア」を宣告する。

【反則打球】

「ボール」「ストライク」をコール(投球判定を行う)、直後に右手で打者を指さして「インターフェア」を宣告し、……

28) 宣告用語の変更について ……183頁・184頁

テイク〇〇を「ユー・〇〇ベース」または「ランナー・〇〇ベース」に変更をしました。

29) コールドゲームについて ……189頁

処置手順を明記しました。

降雨のためコールドゲームとなる場合は、大会本部で両チーム監督に対し、コールドゲームになる旨を説明し、球審はホームプレートに出て「ゲーム」を宣告した後、場内放送を行う。

30) チーム及び会員について ……規律関係集23頁 連盟規程

第6条の表現と範囲が明確化されました。

(1) 一般チーム (壮年部含む)

(2) 少年チーム (少年部・学童部)

2 一般チームは、次のいずれかに該当する者で編成されたチームをいう。

① 職域チームは、官公庁、会社、商店、工場等に勤務する者のみによって編成するチーム、または同一企業に勤務する者～(以下省略)

② クラブチームは、支部の地域内および隣接都道府県に居住、または勤務する者のみによって編成するチーム。なお、隣接都道府県居住者の登録は、全登録者の1/3以内とする。

③ 少年チームは、少年部と学童部とし、支部の地域内および隣接都道府県に居住する者で編成されたチームをいう。なお、隣接都道府県居住者の登録は、全登録者の1/3以内とする。

31) 会員の登録について ……規律関係集24頁 連盟規程

第10条3および6の一部文書が削除されました。

3 ……また、支部をまたがり登録する場合は、連盟の承認を必要とする。を削除

32) 連盟競技者規程について ……規律関係集43頁 競技者規程

日本スポーツ協会の略名が日体協からJSPOになりました。

第1条 この規程は、公益財団法人全日本軟式野球連盟(以下「連盟」という。)が公益財団法人日本スポーツ協会(以下「JSPO」という。)～(以下省略)